

令和8年度高齢者インフルエンザ定期予防接種のお知らせ

予防接種は、免疫をつくり、感染症予防に役立ちます。このお知らせをご確認いただき、理解した上で予防接種を受けるかご判断ください。

■インフルエンザとは

インフルエンザとは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴です。併せて普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻水、咳等の症状もみられます。ご高齢の方や免疫力の低下している方では細菌による肺炎を伴う等、重症になることがあります。

日本では、例年12月～3月が流行シーズンです。主な感染経路は、感染した人の咳やくしゃみ等のしぶき（飛まつ）を吸いこむことによる飛まつ感染及び患者と接触したり、ウイルスが付着した手で口や鼻に触ることによる接触感染です。

■インフルエンザワクチン

季節性インフルエンザウイルスのA型とB型をそれぞれ鶏卵を用いて増殖させ、ホルマリンで不活化したものです。2026/27シーズンは、A型の2種類とB型の1種類の株を使用しています。

- ◎ 令和8年度から高用量インフルエンザHAワクチンを本定期予防接種の対象とする予定でしたが、同ワクチンの供給が困難であるため、令和8年度の定期接種化を見送る方針であるとの厚生労働省の通知を受け、同ワクチンを対象とせず、インフルエンザHAワクチンのみを対象とします。

■副反応

過敏症（発疹、蕁麻疹等）、注射部位の局所症状（発赤、腫脹、硬結、熱感、疼痛等）、精神神経系の症状（頭痛、一過性の意識消失、めまい等）、消化器症状（嘔吐・嘔気、腹痛、下痢、食欲減退）、筋・骨格系の症状（関節痛、筋肉痛、筋力低下）、その他の症状（発熱、悪寒、倦怠感等）がみられることがあります。また、まれではありますがショック、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎、脳炎・脳症、脊髄炎、視神経炎、ギランバレー症候群、けいれん、肝機能障害、黄疸、喘息発作、免疫性血小板減少症、血小板減少、血管炎、間質性肺炎、皮膚粘膜眼症候群、急性汎発性発疹性膿疱症、ネフローゼ症候群が生じる可能性があります。

■接種対象者

令和8年12月31日までに①または②に該当する中央区在住の方

- ① 満65歳以上の方（昭和37年1月1日以前に生まれた方）
- ② 満60歳～64歳の方（昭和37年1月2日から昭和42年1月1日までに生まれた方）で、心臓、腎臓、呼吸器の機能障害またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害で身体障害者手帳1級の方
- ◎ 接種を受ける法律上の義務はありません。本人が希望する場合に限り接種を行います。

■接種場所

- ① 中央区内の本定期予防接種の実施医療機関（同封の医療機関名簿をご参照ください。）
- ② 他22区の本定期予防接種の実施医療機関（各区の予防接種担当部署または医療機関へお問い合わせください。）

■接種費用

- ① 満60歳～74歳の方は2,500円
（予診票に「自己負担額：2,500円」と印字されています。）
- ② 満75歳以上の方、生活保護を受けている方、中国残留邦人等に対する支援給付を受けている方は無料
（予診票に「自己負担額：0円」と印字されています。）
- ◎ 住所・氏名を変更した場合、本定期予防接種の実施医療機関以外で接種を受ける場合及び予診票の有効期間外の場合は、同封の予診票を使用できません。

■実施期間及び回数

令和8年10月1日～令和9年1月31日の間に1回

実施期間中に65歳（接種対象者②の方は60歳）の誕生日を迎えられる方は、誕生日の前日以降に接種してください。誕生日前日より前に区発行の予診票を使用して接種することはできません。

※誕生日によっては、接種期間が短い方もいますのでご注意ください。

■持ち物

- ① 同封の予診票（事前に必要項目をご記入ください）、② 健康保険証（マイナ保険証・資格確認書）

■他のワクチンとの同時接種

医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチン（新型コロナワクチン等）との同時接種が可能です。

裏面もお読みください

(1) 予防接種を受ける前の注意事項

このお知らせをよく読み、よく理解した上で接種しましょう。気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師に質問しましょう。十分に納得できない場合には、接種を見合わせてください。

予診票は、接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大事な情報です。接種を受ける方が責任をもって記入し、正しい情報を接種する医師に伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない方

次の方は、予防接種を受けることができません。

- ① 明らかに熱のある方（通常37.5度を超える場合）
- ② 重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ 本予防接種の成分に対して、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな方
「アナフィラキシー」とは、ワクチン接種後に起こる激しいアレルギー反応で、じんましんなどの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が起こります。血圧低下や意識障害を伴う場合は、「アナフィラキシーショック」と呼ばれます。
- ④ その他、医師に不適当な状態と判断された方

(3) 予防接種を受ける際、担当医師とよく相談しなくてはならない方

次の方は、かかりつけの医師と事前によくご相談ください。

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液疾患、その他基礎疾患を有する方
- ② 風邪などのひきはじめと思われる方
- ③ これまでに予防接種を受けて2日以内に発熱、発疹などアレルギーを思わせる異常がみられた方
- ④ 本予防接種の成分または鶏卵、鶏肉その他の鶏由来のものに対してアレルギーを起こす恐れがある方
- ⑤ 薬を使用して皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある方
- ⑥ 今までにけいれんを起こしたことがある方
- ⑦ 間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器疾患を有する方
- ⑧ 免疫状態を検査して異常を指摘されたことがある方または近親者に先天性免疫不全症の人がいる方

(4) 予防接種を受けた後の注意事項

- ① 予防接種を受けた後、30分間は接種場所で安静にするか、医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。アナフィラキシーなどの急な副反応はこの間に起こることがあります。
- ② 接種後に接種部位の異常や、高熱、けいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ 接種後1週間は副反応が出ていないかよく観察してください。
- ④ このワクチンは不活化ワクチンです。令和2年10月より不活化ワクチンの接種間隔が撤廃され、このワクチンの接種後に違う種類の不活化ワクチンや生ワクチンを接種する場合には、翌日から接種が可能です。
- ⑤ 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位はこすらないでください。
- ⑥ 接種当日は激しい運動や大量の飲酒は避けてください。その他はいつも通りの生活で差し支えありません。
- ⑦ 予防接種を受けた後、極めてまれに健康被害（治療を必要とする重い副反応）が生じることがあります。このような場合、その健康被害が定期予防接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、予防接種法に基づく健康被害救済制度が適用されます。

詳細は区ホームページをご覧ください

中央区 高齢インフル 接種



〈区ホームページ〉

【問合せ先】 中央区保健所 健康推進課 予防接種担当

中央区明石町12-1

TEL: 03-3541-5930